

2022年3月22日（火）

老球の細道661号

志を貫く

会津バスケットボール協会 室井 富仁

3月は教員の人事異動の季節である。暗いニュースで毎日が落ち着かない日々であるが、嬉しいニュースも舞い込んでいる。以前高校で教えさせていただいた二人の教え子が教員採用試験に合格した。狭き門の中、長い間の講師生活の後だけに喜びもまた格別だった。

一人は、坂下高校で出会ったI君。中学時代はスタメンではなかったが、高校で本人の努力が実り会津地区ベスト5の優秀選手賞を獲得して卒業した。教員志望で大学に進学し、小学校、中学校で講師をやりながらミニバスケットチームのコーチにも携わり、県大会出場、地区選抜チームスタッフなども歴任した頑張り屋さんである。

コツコツ真面目に努力する人間性とキャプテンも務めたリーダーシップは高校時代から光っていた。東日本大震災時には、学生でありながら避難場所であった葵高校体育館に毎日通いつめ、避難所の救援活動や子供たちの遊び相手などに積極的に協力してくれた。

4月から中学校の保健体育科教員として正式採用となるが、持ち前の勤勉さ、指導力、そして困っている人を見過ごせない優しさで、すばらしい教員、コーチに成長していくことだろう。そしていつの日か会津に戻り、バスケット協会に力を与えてほしい。

もう一人は、退職間際の葵高校で出会ったSさんである。ミニバスケットボールで県大会優勝のキャリアを携えて葵高校に来てくれた。私にとってはコーチ生活史上初のキャリア選手であった（今までミニ、中学で県大会優勝経験者を指導したことは皆無だった）。男性並みのワイルドなプレイと日本一アーチの高いシュートは魅力的だった。同学年にも有望な選手が入学したので希望に胸を膨らませて教員生活最後の指導にあたっていたが、何事も好事魔多し。2年生の時に突然病気になり1年間近く十分な活動ができなかった。しかし3年時には見事病気を克服しコートに戻ってきた。残念ながら私はコーチ交替で退職。

Sさんも教員を目指して大学に進学しバスケットボールも続けた。卒業後会津地区内の小学校で講師を務めたが、4月からは正式採用として小学校で教鞭をとる。高校時代の病気を考えると、あきらめないでよくがんばったと敬服するばかりである。

二人に共通することは、色々な挫折があっても、自分の志をあきらめないで貫き通す一途さと粘り強さである。これから新たな学校で、責任ある立場としての新たな勝負、試練が待っている。コートの中の戦い、バスケットボールでの戦いと同じように「熱意、誠意、創意」で立ち向かってくれるだろう。

誰かが言っていたが「人間は3回生まれ変わる」。一回目は「オギャー!」、2回目は自我の芽生えた「思春期」、3回目は「一生を貫く仕事に携わった時」であると。教え子がコートで学んだことを社会、仕事でも発揮してくれることはコーチの喜びである。「あきらめない」ということは、結果が見えない中で努力を続けること」。バスケットが教えてくれた選手として、コーチとして、人間としての基本的な原理原則である。